

### 第3回（仮称）北海道学校教育情報化推進計画策定に係る有識者懇談会議事概要

日時：令和5年（2023年）8月8日（火）10:00～11:30

場所：ウェブ会議システム「ZOOM」による開催

（ICT教育推進課執務室）

#### 【構成員】

- ・計画案には、ICT環境の整備や、地域におけるDX、リテラシー向上、セキュリティ対策などがかなり盛り込まれており、引き続き連携したい。
- ・技術革新のスピードを踏まえ、必要に応じて柔軟に計画を見直すことが極めて重要である。例えば、生成AIなどの新しい技術サービスが開発されるたびに、活用の推進と適切な規制が必要であるという問題に直面するので、柔軟な対応がポイントになる。

#### 【座長】

- ・技術革新に柔軟に対応することが大事であることを踏まえて、計画を進めていただきたい。

#### 【構成員】

- ・計画の推進にあたっては、子どもの声を取り入れることが大事である。
- ・先生方が前向きに必要性を感じることで、情報化の推進に繋がる。

#### 【座長】

- ・子どもや教師の声を意識して、施策を実施することが大事である。

#### 【構成員】

- ・計画案は、現状に合わせた非常に着実な取組であると感じている。
- ・計画の推進にあたって、地域や学校の格差が出ていると考えているので、どこも取り残されないような道教委の支援が必要である。
- ・自己調整学習のような主体的な学びの一つの考え方が出てきたように、ICT分野の技術革新のスピードが早いので、国の計画を踏まえ、計画を適宜見直してもらいたい。

#### 【座長】

- ・地域格差の解消に向けた取組が必要である。
- ・自己調整学習とICT活用はセットで議論されるべきことと考える。

#### 【構成員】

- ・計画案には、大きな問題はない。
- ・企業と道教委との連携を個別に検討するにあたり、企業や道教委側の都合により、連携できない点が多くあるが、諦めることなく、継続した話し合いが必要である。企業と道教委・学校の連携体制を引き続き整備できたらよい。
- ・ICT活用にあたっては、普段から子どもが自分の学習に使うツールとできるような取組を研修で支援できたらよい。

#### 【座長】

- ・ ICT 活用では、国や企業、地域のサポートも必要であるため、引き続き、連携いただきたい。

#### 【構成員】

- ・ ICT 活用の現状や課題と考えている点は、基本的な方針の中に位置付けられており、非常に良い。
- ・ 計画期間は5年とあるが、メクビットの本格運用や家庭でのクラウドを活用した学びの進捗状況、デジタル教科書の本格導入、生成 AI の活用状況を見極めて、国の計画の見直しを踏まえ、短いスパンで計画を見直す必要がある。
- ・ 学校や教員の間で格差が生じており、教員を研修にどう向き合わせていくかが重要である。
- ・ 道教委作成の ICT ポータルサイトの内容が非常に充実している。

#### 【座長】

- ・ 研修に積極的に参加する方と参加しない方で、格差が出ているため、対応が必要である。

#### 【構成員】

- ・ 計画案に主な意見の多くが盛り込まれている。
- ・ 学習活動の視点から見た情報活用能力一覧を各校に示して、教育課程に位置付けてもらうことが今後の大きな焦点になると考える。各教科指導における情報活用能力との関連など、授業を構成する一つの要素として、位置付ける工夫が必要である。
- ・ ICT 支援員の確保は地方の小さな自治体では難しいと考えているが、地域おこし協力隊制度の活用などの具体例が示され、様々な工夫を凝らしながら学校への支援をお願いしたい。
- ・ 学校における ICT 活用のための環境整備では、端末の故障・破損・紛失などに対応する手順が盛り込まれ、学校だけでなく、家庭や保護者と学校設置者や学校における共有が示されており、これらの関係者の緊密な連携の実現をお願いしたい。
- ・ 他の都府県での先行事例を北海道に合った形で速やかに導入いただきたい。

#### 【座長】

- ・ 全国にある様々な事例を積極的に取り入れ、本道の広域性を踏まえて、具体的にどのようにするか議論いただきたい。

#### 【構成員】

- ・ 計画案に多くの意見が反映されている。
- ・ 文部科学省作成の資料に記載されている ICT 支援の具体的な業務例にある環境整備は、教員の業務ではないと考えている。子ども達や先生が積極的に ICT を活用できる体制を整えていただきたい。
- ・ 学校は与えられた目標を達成する取組を推進するにあたり、例えば ICT 支援員を令和9年度までに何% 配置するという目標を設定するなどして、設置者と学校が連動しながら進める必要があると考える。
- ・ 高校では次年度から全ての生徒が端末を活用することから、学校によっては千台以上の端末が稼働することから、通信環境の整備について、引き続き対応をお願いしたい。

#### 【座長】

- ・ 大学では、環境整備と教育を行う者を分けている。先生が環境整備を行うと教育の質を保つことが困難となる。

#### 【構成員】

- ・計画案における問題はない。
- ・障がいのある児童生徒の教育環境の整備については、専門機関と連携した研究が進み非常にありがたい。例えば、知的障害の特別支援学校では、企業と連携しながら、リモートインターンシップなどで就労に結びつけるケースがあることや、肢体不自由の養護学校では、自身のロボットを使った遠隔操作による企業との取り組みもある。様々な連携が今後も一層進むことを期待している。
- ・個人情報漏洩や紛失、著作権の問題に対する対応は十分に気をつける必要がある。

#### 【座長】

- ・特別支援教育の分野における ICT 活用については、積極的に研究して子ども達に還元していく取組を進めていくことをお願いしたい。

#### 【構成員】

- ・計画案はとても内容が濃く、これから向かったもので、重大な問題はない。
- ・タブレットの持ち帰りができていない学校があるなど、学校間で格差がある。先生によっても得意な方と不得意な方がいる。限られた勤務時間の中で、心理的安全性を確保した上で、先生達に新しい技術を習得していただきたい。
- ・不登校について、小中学校では空き教室を活用した対応が増えてきているので、ICT を活用したサポートを手厚くしていただきたい。

#### 【座長】

- ・ICT 活用は学校だけではなく、家庭との連携が非常に重要なキーワードである。学校と家庭が両輪となり意識を合わせて進めていく必要がある。
- ・主体的に子ども達が学ぶと、先生方の負担は随分軽くなる。
- ・環境づくりは地域とも連携する必要がある。

#### 【構成員】

- ・計画案については、問題はないし、全く異論はない。
- ・地域や学校、教員によって差が生じて、子ども達の教育に差が出るのが気になる。道教委が優れた実践事例を収集・発信することで、道内の先生がすぐに活用できるようにしていただきたい。
- ・生成 AI などの新しい技術が開発されると便利になる一方で問題も生じるため、規制が必要との議論になるが、時代の流れとしては、積極的に活用する必要がある。

#### 【座長】

- ・ICT 活用の推進に即効薬はない。
- ・保護者に積極的に学校に来てもらい、新しい学びを見てもらうことが、ICT 活用の家庭における理解に繋がる。
- ・ICT 活用の目的は使うことではなく、例えば、自己調整学習や先生の授業設計、学校でのカリキュラムマネジメントだと考える。それを実現するために、ICT が必要不可欠であるという流れである。
- ・生成 AI は知識に近いことはほとんどできる。我々が行うことは、課題を発見して解決すること。ICT を活用してできることを理解する力を子ども達が身に付けるために、計画があると考える。先生がそれを理解して授業実践することが大事である。